

# 歴史文化学科

Department of History and Culture

学びの内容を  
知るための

# 10

のポイント



POINT

01

歴史と文化、日本と世界を横断した学びに対応する  
充実した教員構成をとっています。

歴史  
分野



松田 忍 (日本近現代史)



毛利 英介 (東洋史)



湯上 良 (西洋史)



松山 周一 (地理学)



三野 行徳 (アーカイブズ学・日本近世史)

文化  
分野



鶴岡 明美 (日本美術史)



永井 裕子 (西洋美術史)



後藤 麻衣子 (民俗学)



鈴木 伸哉 (日本考古学)



村上 夏希 (文化財保存科学)

客員教授 加藤 丈夫 (前国立公文書館長) / 徳川 家広 (徳川記念財団理事長)

学科の最新の活動は、歴史文化学科ホームページや学科公式SNSでも紹介しています。



● 歴史文化学科HP  
<https://www.swu.ac.jp/admission/event/>



● 学科公式Instagram  
[https://www.instagram.com/rekibun\\_official/](https://www.instagram.com/rekibun_official/)



● オープンキャンパス情報  
<https://www.swu.ac.jp/faculty/culture/rekibun/>

# 学びのイメージ

日本近世史ゼミに所属している  
3年 坂井 ことみさんの例



私は高校から始めた茶道について歴史・文化の両面から学びたいと考え、歴史文化学科に入りました。

1～2年生は各地域・時代の概論や基礎・調査法の授業を履修し、歴史研究の基礎知識を身につけることができました。また、学芸員課程と史料の保存整理の専門職であるアーキビスト課程を履修し、資格取得を目指すとともに、自身の学びや研究につなげています。授業外でも光葉博物館デジタルアーカイブ・プロジェクトに参加し、実際の史料に触れつつアーキビスト課程での学びを実践する体験をしています。

現在は日本近世史ゼミに所属し、卒業論文執筆に向けた研究テーマの追及とともに、より専門的な歴史研究の知識習得に努めています。学科外では裏千家茶道部に所属し、茶道を学びつつ、茶道の魅力を多くの方に知っていただけるよう活動をしています。自身の興味関心を軸に自由に学び、実践する経験ができており、充実した大学生活を過ごしています。



POINT

02

初めて学ぶ分野でも学問の基礎から知識と方法を習得する仕組みがあります。また複数分野をまたがって学ぶマルチディシプリンを実現する環境があります。

POINT

03

研究の基礎力を習得させる充実した学科必修授業がおかれています。

1年生～2年生

◎概論科目で各分野の基礎知識を習得

日本近世史概論  
アーカイブズ概論  
西洋史概論

1年生～2年生

◎基礎・調査法系科目で学問の方法論を習得

日本近世史史料解読  
東洋史史料解読  
日本美術史基礎

1年生～2年生

◎充実した必修授業で実践的な研究力を磨く

1年次 歴史文化基礎Ⅰ

2年次 歴史文化基礎Ⅱ

2年生～3年生

◎特論科目で研究の最先端を学ぶ

日本近世史特論

3年次 日本近世史演習（ゼミ）

4年次 歴史文化演習（ゼミ）

卒業論文

【その他の修得科目—坂井さんの場合】

博物館概論／博物館資料論／博物館実習Ⅰ／外国考古学／茶道文化史  
仏教文化史／伝統文化の現場 などその他多数

POINT

04

歴史文化に関わる選択科目が豊富に用意されており、組み合わせて履修することで、学びの幅は大きく広がります。

POINT

05

3・4年次の少人数ゼミでは、卒業論文（必修）を執筆します。研究の過程で、社会で必要とされる調査力、分析力、プレゼン力、文章表現力などを身に付けて卒業します。

POINT

06

様々な資格を取得でき、MLA3資格も取れる  
全国でも数少ない学科です。

【取得できる資格】歴史文化学科では下記の資格を取得することができます。

学芸員／考古調査士(2級)／高等学校教諭一種(地理・歴史、公民)／中学校教諭一種(社会)／図書館司書・司書教諭  
／昭和女子大学認定アーキビスト(2級)／日本語教員(大学認定証)／社会福祉主事(任用資格\*)

※任用資格とは公務員に採用された後、特定の業務に任用されるのに必要な資格です。



**M** 博物館  
Museum

学芸員【博物館資料のスペシャリスト】

**L** 図書館  
Library

司書【図書館資料のスペシャリスト】

**A** 文書館  
Archive

アーキビスト【記録資料のスペシャリスト】

POINT

07

専門の学びを実践力とつなげる  
豊富なプロジェクトがあります。

プロジェクト名	担当教員	活動の概要
光葉博物館デジタルアーカイブプロジェクト	三野行徳	光葉博物館の収蔵資料を整理・調査・撮影し、デジタルアーカイブを作って公開していく。
畷山遺跡・福岡古墳群の調査	鈴木伸哉	遺跡の発掘調査。準備・運営、調査後の整理作業、報告書の作成。
世界の葡萄文化プロジェクト	湯上 良	世界各地に見られる葡萄を軸とした文化的側面について、食物や景観、歴史的経緯、美術や宗教的観点、さらには各文化圏における葡萄そのものの位置づけについて明らかにする。
戦後史料を後世に伝えるプロジェクト	松田 忍	被爆者運動の史料をはじめとした実物の歴史史料に触れ、分析・研究し、発表する活動。学術展示や雑誌への投稿など様々な研究発表の機会がある。
「植民地朝鮮の農業」研究会	松田 忍	植民地朝鮮の産米増殖計画に呼応して、全羅南道康津郡にて干拓農地を営んだ実業家の関係文書を読み解いている。メンバーが力を合わせて約300点の史料を読み解き、戦前日本の植民地経営のリアルを明らかにしている。
民俗芸能の次世代継承プロジェクト	後藤麻衣子	若手伝承者の発表の場をつくり、技術的な研鑽を積む場をつくる。若手伝承者同士がお互いの発表を見学し、交流、意見交換のできる場を作る。一般の人々に民俗芸能を見て知ってもらう機会をつくる。
椎葉村民俗調査(椎葉巡見)	後藤麻衣子	宮崎県椎葉村内の盆行事の民俗調査、椎葉神楽継承に向けての活動、調査報告書の発行。

西洋史に興味があり、参加を決めました。初年度はグループで活動し、葡萄に関する多様なテーマについて文献調査と発表を行いました。英語文献に挑戦したり、先輩のプレゼンの工夫を見て学んだりと、実践的な力を身に付けられます。また、ヨーロッパ歴史文化演習と協働し、ギリシャと日本を Zoom でつなぎ、現地の葡萄文化を共有する機会も持てました。葡萄という身近な存在が宗教や文化、経済と深く結びついているなど、歴史の面白さを実感できます。ゼミや学年を超えて交流し、楽しく学べる点も魅力です。歴史好きはもちろん、新しいことに挑戦したい方にも是非参加してほしいです。(4年 大川陽向 さん)



ギリシャとのZoom中継の様子

地域の人々に喜びを届けてきた民俗芸能は、日本を代表する貴重な文化遺産です。しかし、現在は担い手不足により存続の危機に瀕しています。本プロジェクトは「知って、繋いで、未来へ」をキャッチコピーとし、神奈川県民俗芸能保存協会等の外部団体と連携しながら、その魅力を広く伝える活動を行っています。秋桜祭での公演企画や SNS 発信、現地調査、担い手との交流を通じて理解を深め、2025 年には Students of the Year を受賞しました。現場で課題を捉え、自らの言葉で発信することに力を入れながら、継承の難題に主体的に向き合い、伝統を次世代へと繋いでいく活動を行っています。(4年 里村陽菜 さん)



秋桜祭における活動の様子

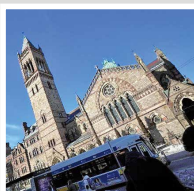
POINT

08

## グローバルな環境で歴史文化の学びを実現する 留学プログラムがあります。

### 昭和ボストン日本文化プログラム

大学のボストン校での春期研修「日本文化プログラム」では、2週間という短期間でボストンの主要な歴史的名所をまわり、ボストンがいかに日本とつながってきたのか、この地がどんな歴史を歩んできたのかを知ることができます。初めての海外でしたがとても楽しく、新発見や日本との違いにあふれていました。短期間でも、日常英会話を実践することができ、最初は覚束なくても少しずつ話せるようになっていました。また来たいと思える有意義な時間を過ごすことができました。(3年 本田舞子 さん)



### ヨーロッパ歴史文化演習B

ヨーロッパ歴史文化演習Bでは、現地での体験を通して歴史への理解を深めることができました。大学の先生や専門職員の解説を引率の湯上先生が通訳してくださり、現地の人々の視点から学べた点が印象的で、単なる旅行では得られない魅力を感じました。実際に街を歩き、土地や建物の特徴と歴史との関わりを実感することで、教室での学びがより深まり、歴史を立体的に捉えられるようになりました。現地で学ぶことの魅力を実感できた、非常に有意義な経験だったと感じています。

(2年 梶本真以 さん)



POINT

09

## 学科独自の充実した キャリア支援プログラムがあります。

### キャリアを見据えた4年間をサポートする仕組み

歴史文化学科(歴史)の入学には、4年間の過ごし方のモデルを示した冊子「歴史生の4年間」を配布します。これには、学びの集大成である卒業論文の執筆と卒業後のキャリアを見据え、各学年でなすべきことが具体的に示されています。また、3年生対象のキャリア科目「歴史文化と社会」を開講するほか、1年生対象科目の「歴史文化基礎Ⅰ」・各学年対象の年度末企画においてキャリア講座を設け、段階に応じた支援をします。2014年度以来、教員を輩出していることも、歴史文化学科でのキャリア支援の成果です。



### 3年生キャリア科目 歴史文化と社会

歴史文化学科の教員や外部講師による就職活動の準備科目。インターンシップのためのエントリーシートの添削、グループディスカッションの実践練習や、プロの就活講師による授業など、役立つ多彩な講義を実施します。



POINT

10

## みなさんの目標となる 素敵な先輩や卒業生がたくさんいます。

歴史文化学科の魅力は、自分の興味に合わせて学びを自由に広げられる点です。私は「椎葉巡見」や「民俗芸能の次世代継承」などのプロジェクト、さらに博物館資料のデジタルアーカイブ化など、現場や史料を通じた多彩な活動に携わってきました。このように活動が多岐にわたっても、先生方との距離が近く、学びの方向性をいつでも相談できるので安心です。「伝統芸能実習」での人形浄瑠璃体験や、継承者から直接学ぶ「伝統文化の現場」など、五感で学ぶ実践的な授業も充実しています。歴史や美術など、分野は違えど好きなことに熱中する学生が多く、落ち着いた雰囲気の中で互いに高め合える、この学科特有の空気感が気に入っています。

(4年 倉持小夏 さん)



高校で受けた世界史の授業が面白く、歴史文化学科に入學しました。入学当初は西洋史を専攻しようと考えていましたが、1・2年生には分野を絞らず、興味の赴くままにさまざまな授業を履修しました。その中で西洋美術史を専攻しました。絵画や彫刻、写真といった多様な媒体があり、また主観的に捉えられることの多い美術作品の中に歴史や文化を読み解く面白さを感じたからです。さらに大学院進学後はアーカイブズ学にも関心を広げ、アーキビスト課程の授業も履修しています。授業やゼミでは、先生や学生と意見を交わしながら学ぶ機会も多く、新たな視点を得られる点も魅力です。自分の学びを発展させながら学術的関心の幅を広げられる点が、本学科・専攻の大きな魅力だと感じています。

(卒業生・大学院生活文化研究専攻  
修士2年 田中純 さん)

